

こうがく 香樂の時間

…音を楽しむのが音楽、香りは香樂…

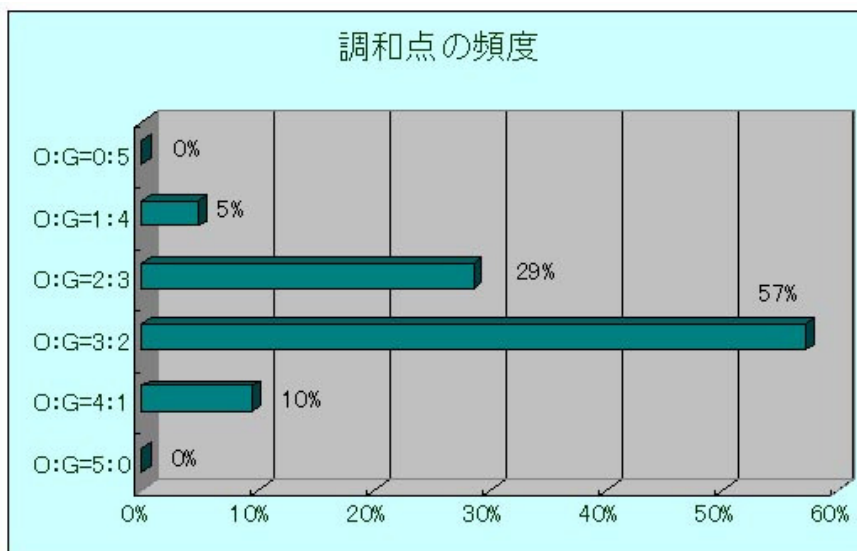
(1)調和してるってどういうこと？

化粧品メーカーの研究所を退職後、「香樂塾」という看板を掲げて、調香技術を教える活動をしています。活動をするなかで得られた興味深い事柄や香り関連の情報などを書いていこうと思います。今回は副題のとおり、「調和」がテーマです。

ここに2つの香料、オレンジオイルとゼラニウムオイルがあります。それらを5:0、4:1、3:2、2:3、1:4、0:5という具合に配合したものを用意します。さて問題です。5:0と0:5はそれぞれ単独ですから別にして、いったいどの配合がもっとも調和していると感じますか？

これは香樂塾の調香講座の設問の一つですが、実際に香りをかいだ生徒さんたちの答えは図1のような結果でした。

図1調和点の頻度グラフ



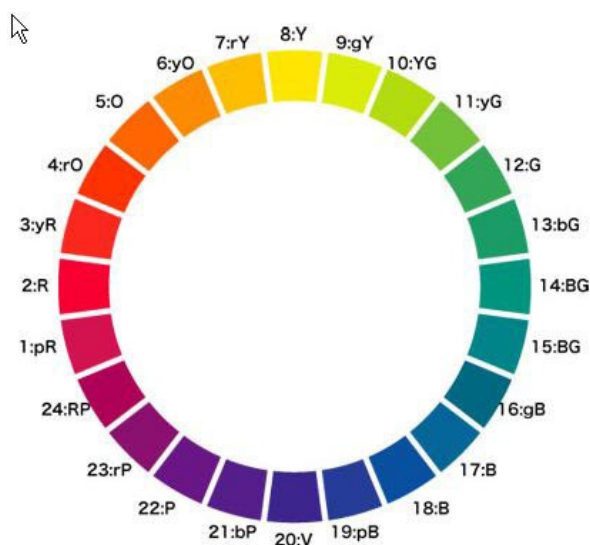
こういう問題に正解はありません。なぜなら調和とはなにか科学的に定義されていないからです。1:4や4:1を選んだひとはオレンジやゼラニウムのどちらかがはっきりしていて“好ましい”といいます。しかし多くの人が3:2や2:3を選んで二つの香りの”バランスがよい”といいます。

調香師はたくさんの香料の調和点を求めて試行錯誤することを仕事としています。いったいバランスがよい、調和しているとはどんな現象なのでしょう？

音の世界には和音というものがあり、それは周波数の比が簡単な整数比になっていることで説明されます。

色彩の場合では、色相環上で対極にある色を補色といいます。補色の関係が調和を説明する一つの要素となっています。図2

図2 色相環



しかし匂いの世界ではそのような調和の法則やメカニズムが見つかっていません。それは匂いを感じるメカニズムが十分解明されていないことによりますが、その原理がどうであれ、私たちが複数の香りの組み合わせにバランスの良し悪しを感じるのは確かです。

ある人は2つの香りのバランスが良いときは2つの香りが混じっているという意識はなくなり、あたかも第3の香りが出現したかのようだといいます。また絶妙なバランスのときは相乗効果でボリュームが大きく感じられるという調香師も少なくありません。

匂いと同一化学刺激である味の世界に相乗効果という現象があることはよく知られています。例えば昆布のうまみ成分であるグルタミン酸とかつおぶしのうまみ成分であるイノシン酸をあわせると、うまみは何十倍にもなります。

香りにも相乗効果はあるのでしょうか？ 例えばシトラスとムスクのように、甘いものにも塩加減というような意味での効果的な組み合わせはありますが、それは対比効果であり相乗効果とはいえません。

私は2つの大胆な仮説に従って調和を判定できると考えています。一つは私の発見した”名香方程式”にのった配合は調和するというもの(これについては次回に述べるつもりです)。もう一つは香りの同質性と異質性のバランスを概ね黄金比(1:1.618)にすると調和するというものです。(これについても別の機会に説明しなくてはならないと思います)。

みなさんはどういう点に注意をむけて調和、不調和を判断していますか？